



憲法まもれ・いのちまもれの声響く

10.20 国民集会

3000人国民集会

日比谷野音

10月20日、「憲法・いのち・社会保障まもる国民集会」が東京・日比谷野外音楽堂で開催されました。季節外れの暑さでしたが、全国から3000人超が集まり、「憲法まもれ」「いのちまもれ」とコールをあげました。

富山から、富山県医労連・富山民医連などの代表団14人が参加しました。リレートークでは、「ストッパ患者負担増の署名の呼びかけに、前回の5000事業所から6700事業所が応えてくれている。診療所・待合室から世論をつくる」（武村義人さん・保団連副会長）、「60人の利用者を2人で見ている夜勤を終えた若い職員が、翌朝“全く利用者さんに手が届かない”と泣いていた。苦しんでいる職員がいたら抱きしめてほしい。普通に仕事ができる、普通に生活できる報酬改定を求めます」（青木正彦さん・京都福祉サービスクラス協会職組）と他3人が訴えられました。その後参加者は銀座パレードに参加。沿道では「安倍政治を許さない」のプラカードをもって「フアイト」と手を振ってくれた婦人もおられました。

衆参議員会館へ

代表団は、集会が始まる前に、以下の2つの国会請願署名の紹介議員になってもらうよう要請行動も行いました。

- ① 安全安心の医療介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める署名
- ② 介護保険制度の見直しに対する署名

代表団は、富山選出の衆参議員10人の議員控室を

訪問。直接会えた議員

は、吉田豊史議員・井上哲議員であとは秘書が対応。野上議員の秘書：「総理官邸にいて、ほとんど控室にはいないのです」

吉田議員：「今日県知事選挙や補選で富山に行く予定だ」と話しながら、応接室まで入れて頂き話を聞かれました。

井上議員：「保険あつて介護なしの状態が続いている。流れを変えないといけない」とアンケート結果を興味深く聞かれました。

3つの準備をして

要請行動に臨む

今回は要請行動の前に以下の3つの調査・集約結果をもって参加しました。

- ① 富山県医労連 現場実態を告発するメッセージ運動に寄せられた声
- ② 富山民医連 予定されている窓口負担の2割化・後期高齢者の保険料値上げ・70歳以上の医療費上限引き上げについての患者意識調査
- ③ 予定されている利用者負担・安上がりの介護・専門職以外への移行についての職員意識調査

〈参加者の感想文から〉

社会福祉士

「患者さんからは、これ以



医療介護をよくする 国会議員要請行動

看護師

「私の大きな役目は、現場の医療のスタッフとして生の声で現状を伝える事。政治の力で医療を変えて頂きたい。職員の不満・希望を伝え理解して頂きたくて、緊張したけれども精一杯訴えました」

井上哲・藤野保史(共産)

又市征治(社民)議員から

「うれしい承諾の返事

後日3議員から紹介議員承諾の返事が届きました